

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	76	—	事業名	農業振興事業	担当部課	建設部みどりの推進課
------	----	---	-----	--------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	農ある暮らし・農のあるまちを支える	款	5	農林水産費
		施策の進め方	—		項	1	農業費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F3	「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～	目	3	農業振興費
		政策分類	10	”農”が持つ多様な役割をまちづくりに生かす	大事業	2	農業振興事業
	その他(関係法令、要綱等)	長久手市農業振興事業補助金交付要綱、長久手市経営所得安定対策推進費補助金交付要綱、長久手市農業近代化資金等利子補給規則					
事業開始の背景、経緯等	農業の担い手不足や耕作放棄地などの問題対策として、各種補助金制度を充実し、農業振興を行う。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興事業の補助により農業振興を図る。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 農業者、農地					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者の耕作意欲の向上を図ることにより、農地の有効活用を促し、農業生産を増やす。					
	事業を構成する事務事業	① 農業振興事務事業	改善・見直し	④			
	② 米政策対策推進事業	現状維持	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		3,097	3,341	8,907
決算					2,365	2,487	5,907	
人件費(B)	千円	決算		4,227	4,583	2,900		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		6,592	7,070	8,807		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 景観作物栽培面積	㎡	目標	—	4,104	4,104	4,048	3,698
			実績	—	4,104	4,958	2,437	
	B 米の生産調整の取組面積(水稲作付面積)	ha	目標	—	88	84	80	80
			実績	—	83	81	77	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 耕作放棄地の状況を改善し、農業者の農地の利活用につながる、景観作物栽培事業の取組実施面積を成果指標とした。								
B 農業者の需要にあった適切な米生産と営農活動を支援する米生産対策推進事業を実施するにあたり、農家が転作による米の生産調整を実施し、米生産量が数量目標値を下回る必要があるため、農家の米の生産調整の取組面積(水稲作付面積)を成果目標とした。(目標値を下回る必要がある。)								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 米生産対策推進事業は、全国一律に実施されている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 景観作物栽培面積は目標に達しなかったものの、本事業によらず自ら景観作物栽培を実施された方もおり、取り組みの成果は現れてきている。 また、米の生産調整については順調に進み、作付面積の実績値が目標面積を下回ることができた。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 各種補助事業を実施し、農業者を支援する。 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 耕作放棄地を含め、農地の利活用を進め、多様な農業者を増やす。 各種補助事業を適切に実施し、農業者を支援することによって、農業者の耕作意欲を高める。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 耕作放棄地を含めた農地の利活用が進み、農業者が増え、農業生産が増える。市内に農に関わる人が増える。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		農業振興事業									
番号	①	事務事業名	農業振興事務事業	款	5	項	1	目	3	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、耕作放棄地対策事業、農業資金利子補給事業、営農振興補助事業を実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者の営農を支援し、事業意欲を高める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		1,465	1,349	1,276	1,277
		決算		1,083	863	809	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 農業展補助金						400	千円
② 営農振興事業補助金						251	千円
③ 耕起手数料						88	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
景観作物栽培面積	㎡	目標	—	4,104	4,104	4,048	3,698
		実績	—	4,104	4,958	2,437	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）> 景観作物栽培 合計6筆(2,437㎡) 【昨年度実績：9筆(4,958㎡)】							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

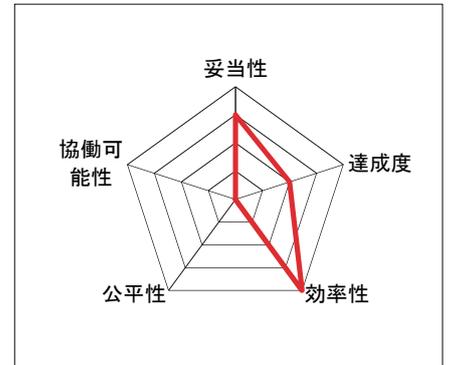
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 大型商業施設の出店に起因する農用地の減少。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 景観作物栽培は引き続き行います。農産物の生産量、販売量が増えたため、農産物直売所の売場が手狭となり、販売額が停滞している。更なる農業振興を図るため、直売所の売場面積の拡大を図ります。耕作放棄地の活用と新しい担い手の育成を図るため、農に関わる情報交換、農地の貸し借りをすすめるサポートセンター事業を推進します。
(何をどのような状態に改善したのか) 農業者の耕作意欲を高め、農地を利活用し、耕作を推進することにより農産物の生産を増やした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 20年来の耕作放棄地が景観作物栽培により、解消された。
--

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 今後は景観作物栽培から、農業者による農産物栽培への転換が図られるよう、検討が必要である。
--

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 今後も引き続き、景観作物栽培を行います。また、耕作放棄地の活用と新しい担い手の育成を図るため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行っていきます。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		農業振興事業									
番号	②	事務事業名	米政策対策推進事業	款	5	項	1	目	3	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 農業者に対し、米生産調整推進対策補助金事業、転作用種子配布事業等を実施。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農業者が需要にあった適切な米生産を行い、あわせて活発な営農活動をする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		1,632	1,992	7,631	2,723
		決算		1,282	1,624	5,098	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
①	水田情報システム構築委託				3,650		千円
②	米生産調整推進対策補助金				808		千円
③	米穀生産調整視察研修負担金				313		千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
米の生産調整の取組結果(水稲作付面積)	ha	目標	—	88	84	80	80
		実績	—	83	81	77	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞ 米生産調整推進対策補助金 111,774㎡ (807,686円) 【昨年度実績 110,098㎡ (790,756円)】							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

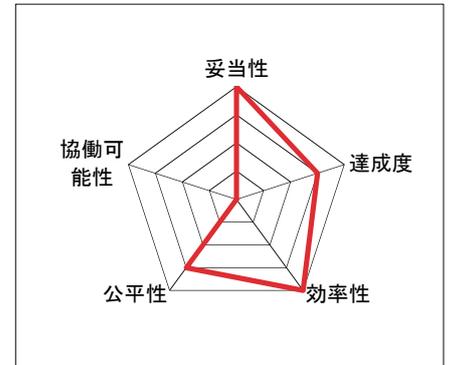
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成30年度より、国の経営所得安定対策事業の制度が一部変更される。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞ 業務の遂行に必要な水田台帳システムを更新し、水田耕作の管理の効率化を図ります。その上で、水田の利活用を進め、水田耕作の活発化を図ります。また、耕作放棄地の積極的利用と稲作を含めた農業の担い手育成を進めるため、農に関わる情報交換、農地の貸し借りをすすめるサポートセンター事業を推進します。
(何をどのような状態に改善したのか) 水田台帳システムの更新を行い、水田耕作管理の効率化を図った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 米の生産調整が順調で、目標を達成することができた。水田台帳システムの更新を行った。
--

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 稲作農業の担い手の高齢化。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 平成30年度に水田台帳システムと既存の農家台帳システムとの連携システムの構築を行うことで、水田台帳システム内の水田情報を最新の状況に保ち、更なる米政策推進対策事業の効率化を図る。また、耕作放棄地の積極的利用と稲作を含めた農業の担い手育成を進めるため、農地中間管理事業や利用権設定等の制度を活用し、担い手に耕作を行ってもらえるよう働き掛けを行っていきます。
